

横田基地周辺住民の
安全確保を

若木 早苗（日本共産党）



問 米軍横田基地周辺の住民は、オスプレイの配備や相次ぐパラシュート降下訓練の事故により、安らぎの時間や当たり前の生活が脅かされています。都と周辺市町がパラシュート落下事故の徹底的な原因究明と、訓練の中止を再三申し入れたにもかかわらず、危険な訓練が再開、強行されたことに憤りを禁じ得ません。また、騒音等の被害や不安が大きくなっていると感じます。被害をなくすための対策を考えていますか。見解を伺います。

答 横田基地は人口が密集した市街地にあり、一步間違えば人命にかかわる重大な事故につながることから、訓練再開は極めて遺憾です。横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会は、国及び米軍に総合要請を行い、騒音防止対策の推進も要望しています。横田基地に起因する課題は、地元自治体及び周辺住民にさまざまな影響があることから、今後も都及び基地周辺5市1町で連携して取り組んでいきます。

一般質問項目 ①高齢者や障がい者が安心して暮らせるために ②地域公共交通のあり方について ③米軍横田基地周辺の住民が安全に安心して暮らせるための対策について

小中学校の給食費無償化を

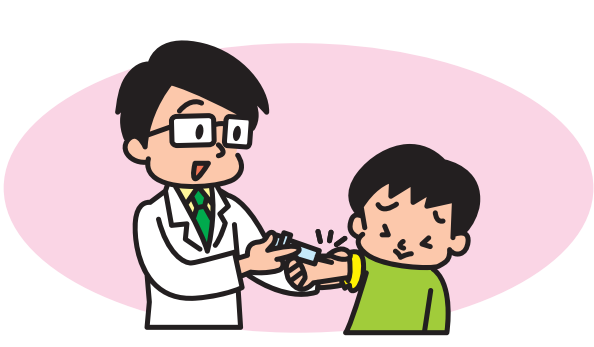
永元 須摩子（日本共産党）



問 平成29年度の国の調査によると、全国の76市町村で小中学校ともに学校給食費の無償化を実施しているとのこと。義務教育である小中学校の給食費については、本市も無償化すべきと考えますが、見解を伺います。また、本市で学校給食費を無償化した場合、いくら必要になりますか。若い子育て世代では、給食費を払いたくても払えない家庭もあると考えられ、子育て支援策としても、学校給食費の無償化の実現を強く求めます。

答 学校給食費につきましては、すべて食材料購入のために使用しています。学校給食法第11条にありますとおり、学校給食費は、学校給食を受ける児童・生徒の保護者が負担するものと考えています。経済的に困窮している方には、就学援助の制度があります。また、学校給食費の無償化に必要な予算は、小学校で約4億2,600万円、中学校で約2億5,800万円、合計約6億8,400万円が必要と試算しています。

一般質問項目 ①少子化対策と保育行政について ②教育行政について ③市民や高齢者が安心して過ごせる環境について ④ファール立川における駐輪場と駐車場の減免について



砂川町七丁目の変則五差路

一般質問等の各議員写真の横のQRコードをスマートフォンやタブレットなどで読み込みますと、市議会ホームページより、本会議での各議員の質問の動画がご覧いただけます。



治癒証明書取得の負担軽減を

浅川 修一（日本共産党）



問 子どもがインフルエンザにかかると、保育園や小中学校では、治癒証明書の提出が求められますが、なぜ治癒証明書が必要なのですか。治癒証明書をもらうための受診や費用が、保護者の負担になっています。インフルエンザの感染拡大を防ぎつつ、保護者の負担とならない方策を考えるべきですが、見解を伺います。治癒証明書の提出を一律に求めているのならば、その取得にかかる費用は、保護者ではなく市が負担すべきと考えます。

答 子どもの安全と、感染拡大を防ぐために、医師の判断が必要と考えています。立川市医師会と協議し、保育園へ登園を再開する場合には、治癒証明書等を提出するとしています。治癒証明書の提出が困難な場合、登園届で対応している園もあります。学校においても、治癒証明書が必要ですが、国の考えや他市の状況を参考に、学校の保健会等において、今後のあり方については検討していきたい。

一般質問項目 ①インフルエンザ対策について ②国民健康保険制度について ③まちづくりについて ④市内中小企業、商店街、農業支援について

危険な変則五差路の安全対策を

木原 宏（たちかわ自民党・安進会）



問 奈良橋街道の砂川町七丁目18番地・28番地にある変則五差路は、柏小学校の通学路であり、付近に公園もあるため、以前から子どもと車の接触事故等が頻発しています。市は、現状を把握していますか。PTAや学校長等から横断歩道の設置を求める声がありますが、設置にはどのような手続きが必要となりますか。また、市が現地に設置した注意喚起の看板に、違法広告物を取り付けられて死角ができ、非常に危険な状態ですが、撤去は可能ですか。

答 変則五差路の危険性は認識しており、カーブミラー設置等の要望が寄せられるごとに、交通管理者とも協議をしています。横断歩道については、立川警察署に地元の総意として要望書を提出し、警察署の判断により東京都公安委員会に上申され、決定となれば設置されます。違法広告物に関しては、発見次第撤去していますが、後を絶たない状況です。違法広告物は、市に連絡があれば速やかに撤去します。

一般質問項目 ①砂川地域から寄せられた諸課題について

健康なまちづくり施策の推進を

松本 あきひろ（たちかわ自民党・安進会）



問 健康は重要であり、健康寿命を延ばす取り組みの展開が一層望まれるとともに、市民への意識啓発の推進が大事です。市が健康水準をあらわす指標、例えば星マークで5段階表示するなど、市民にわかりやすく提示する施策を提唱しますが、見解をお示しください。また超高齢化社会を迎え、町なかの必要な箇所に、腰かけベンチの設置要望や、同様にJR立川駅前のデッキ下にベンチの設置を求める声もありますが、見解を伺います。

答 市民への健康に対する意識啓発では、市の広報で「延ばそう！健康寿命」の記事で65歳健康寿命等を周知しました。ご提案の市独自の指標作成は、科学的根拠となるデータの蓄積やノウハウもなく、難しいと考えています。今後は、国や都のデータをわかりやすく市民に伝えることに努めます。また、ベンチ設置については、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの視点に立った環境整備を進めています。

一般質問項目 ①健康なまちづくりについて ②レンタサイクルについて ③富士見町地域周辺について

不登校児童・生徒のための
学校での居場所づくりを

中山 ひと美（たちかわ自民党・安進会）



問 第五中学校では、地域のボランティアの方々や教員等が、生徒とたわいない話をし、信頼関係を生み出し、学習支援もしている不登校の生徒のための部屋があるそうです。自然と自分のクラスに復帰するなど、少しずつ成果が出ているとのこと。適応指導教室だけでなく、子どもたちには複数の選択肢をあげたいと考えます。その一つとして、保護者の方にとっても安心である、こうした居場所を各学校につくっていただきたいが、見解を伺います。

答 第五中学校の取り組みは、校長会で報告し、全小中学校でこうした居場所づくりに取り組んでほしいと伝えています。適応指導教室では専門的な教育を行いますが、身近な自分の学校の中で、教室に行くまでのハードルを下げる居場所づくりを全校で始めたところです。部屋を確保し、先生もローテーションを組み、地域の力もお借りしながら、子どもたちが少しでも学校にいられる居場所づくりをしていきます。

一般質問項目 ①まちづくりについて ②教育行政について…みんなが輝くために